

## 1. 小学校児童対象アンケート結果について

### (2)自分の生活について

7, 12の質問で「ウ あまりそう思わない」と答えた児童がいることについて次の改善点を考えた。

- ・休み時間には外遊びをすべての児童がしているので、児童の自己肯定感を高めるために「しっかり遊べているよ」と褒めることが大切。
- ・一輪車やバドミントンなど、雨の日の休み時間でも運動を楽しむことができる環境を整備する。
- ・伊座利の海でとれる魚や海そうを知るために、磯学習や生活・総合で伊座利の漁業や海の生き物を扱う。

## 2. 中学校生徒対象アンケート結果について

Cを選択している項目4及び昨年度より評価が下がった項目11,13について次の改善点を考えた。

- ・メモを取る習慣を身に付けさせる。後で確認ができるように、わかりやすいメモの取り方を指導していく。また、行事等詳しい説明が必要な場合は、持参物を書いたメモを渡す等の支援をしていく。
- ・日々の生活の観察により、成長が見られる部分を評価していく。より細かい声かけや対応が必要。
- ・学習内容の難易度が上がり、理解・定着に時間がかかっている。「12:先生は分かりやすい授業をしてくれている」が100%であったので、引き続き個別最適な学びの支援を継続する。
- ・将来の夢や希望の実現に向けて生活していくために、高校のことや職業についての情報を与える中で将来の進路への意識を高める。また、キャリア・パスポートを活用し、キャリア教育を充実させていく。授業時間内だけでなく生徒がリラックスした場面(休憩時間等)に雑談を交えながら将来の展望等の話を聞いていく。
- ・ほとんどの項目で評価が上がっている。特に生活面での評価が向上していることが素晴らしい。中学校生活が楽しく充実したものになっているのではないかと考える。引き続き生徒に寄り添った多方面での支援を継続していくことが大切である。

### 3. 保護者対象アンケート結果について

Cを選択している項目15,16,19,20及びBよりAが低い項目6,12についての改善点を考えた。

- ・面談時や行事での保護者との会話で「できていることや頑張っていること」をしっかりと伝える。
- ・初回の参観日の後に学年部会をして、学校のきまり等に関して必要があることを伝えられるようにする。
- ・学校の様子が、コロナの影響もあり伝わりにくいので、学年だよりを出すようにする。
- ・ホームページ等で日頃の学校生活の様子を保護者に伝えるようにする。
- ・個に応じた学習ができることが伊座利の強みなので、そこを活かすようにする。

### 4. 教職員対象アンケート結果について

- ・全職員で足並みをそろえて教育活動に取り組むために、年度始職員会で学校教育目標を共通理解し、方針を統一する。
- ・学校運営に教職員の意見を反映し、こまめな情報交換をするために、終礼や職員朝会、職員会で発言し合うことのできる状況を作る。
- ・学習方法を工夫・改善するために、教師の一方的な教え込みにならず、子どもの主体的な学びとなるよう常に意識し、実践する。また、振り返りを重視する等、評価の工夫をする。
- ・「徳島県GIGAスクール構想」の取り組みとして、コロナ禍の現状でも柔軟に対応できる授業体制の構築(タブレットの持ち帰り)や授業におけるICTの活用についての研修を推進する。
- ・環境・国際理解・食育等の教育活動に積極的に取り組むために、講師を呼んでの研修の充実を図る。
- ・SDGsに関する内容を様々な教科と絡ませながら考えさせていく。(総合的な学習の時間におけるESDの展開)

## 5. 次年度に向けて

### (1) 学習指導

- ・学力向上のために、学習規律の徹底から細かいルールづくり等、学習環境(授業のユニバーサルデザイン化)を整えることが大切である。また、授業研究会を実施し、授業の進め方等を共通理解するとともに、授業の導入・展開・結びのポイントを整理し、全教職員が一様に実践する。
- ・児童生徒の主体性や思考力を育むために、授業での話し合いの場面設定を工夫する。→児童生徒同士の相互評価を行い、深い学びへと繋げていく。

### (2) 児童生徒指導, 児童生徒理解

- ・児童生徒の様子について、全教職員で情報を共有したり、相談できる時間を確保する。そのために、毎月の職員会や終礼の中に情報共有の時間を明確に位置づける。
- ・教師主導ではなく、児童生徒の自己有用感を高められる指導を行うために、ポジティブな行動支援を充実させ、一人一人の良いところを全教職員が共有する。
- ・「不祥事根絶対策タスクフォースからの『提案』」における学習指導や生徒指導での「してはいけないこと」及び自校における「配慮すること」についての具体的な取り組みを再確認する。

### (3) 研修の充実

- ・校務支援システムやタブレットの活用、プログラミング学習の充実に向けた研修を推進していく。

### (4) 教職員の協働

- ・小中の連携、全教職員の共通理解ができるように、職朝、終礼、研修を活用する。また、行事が追加や変更された場合などは、確実に全教職員が把握できるよう徹底する。→校務支援システム、Teams等の掲示版としての活用。コロナ禍における職員会等のリモート会議。

### (5) 地域・保護者との連携・協働

- ・コミュニティスクールとして、学校、地域、保護者が連携・協働できるように、地域と共に行う教育活動に重点を置いた学校運営を行う。また、コロナ禍の現状により保護者や地域との交流が少なくなっている中で、連携を生かす、深めるためにも積極的にコミュニケーションを図る。

### (6) 業務改善等, 働き方改革の推進

- ・各自の業務内容、時間等を可視化し、業務の効率化を図るとともに教職員の業務の負担の平準化へとつなげていくため、グループウェアを活用した客観的なスケジュール管理を行っていく。→タイムマネジメントの推奨

